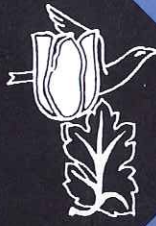


戦前期、「障害者」は国家・宗教・共同体・家族の中で
どのように認識され、振り分けられ、疎外され、
放置され、そして保護・教育され、生き抜いたか。
学業不振児・知的発達障害児・肢体不自由児等から
傷痍軍人まで——知的・身体レベルの障害に関する、
調査報告書・リーフレット・教育啓発文書・施設案内・
公文書等、資料群三〇〇余点を復刻！



〔編集復刻版〕

知的・身体

障害者問題

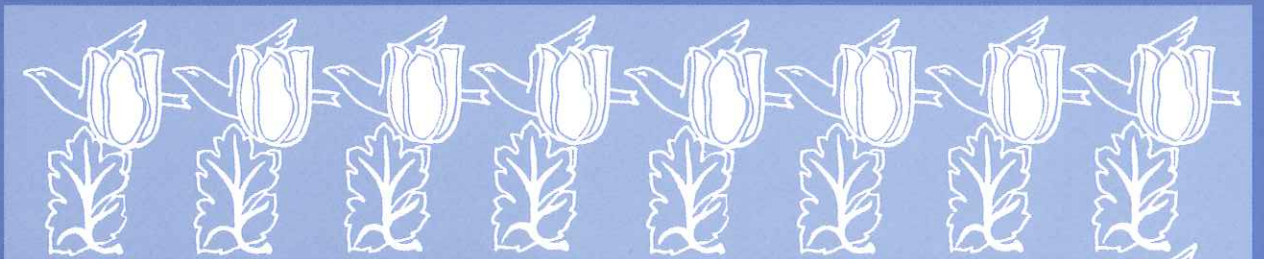
資料集成

戦前編

全一六巻

解説＝高橋淳子
平田勝政

A4判／上製／総約六、〇〇〇ページ
揃定価＝本体四〇〇、〇〇〇円十税



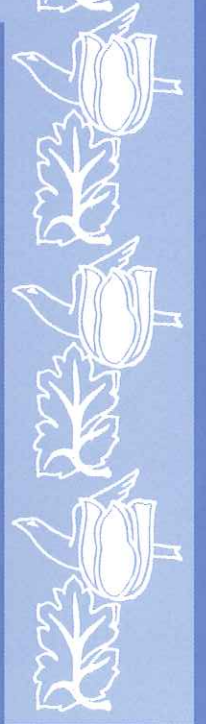
何をもち「障害者」とし「健常者」とするのか、その区別は
はなはだ困難である。

しかし、国が定めた教育制度では対応しきれない子どもたち、あるいは社会に適應できないとされる人々が、かつても今も存在することは事実である。その原因が子ども／人々の知的なあるいは身体的な障害であれ、戦争や貧困、虐待によるものであれ、いずれにしても確かに「障害者問題」は存在している。

本資料集成は、今日でいうところの学習障害(LD)、注意欠陥／多動性障害(ADHD)、高機能自閉症なども含む知的発達障害、そして視覚障害、聴覚障害、肢体不自由などの身体障害に関する資料を中心に、対象を虚弱児童・傷痍軍人まで広げ、資料の発行年順に収録したものである。障害が単一でなく複合的な場合も多くあること、また障害児の問題の中にいわゆる「要保護」児童との問題が深く関わっていること、といった現実的な問題に向かうために、細かなテーマに分けることはしなかった。

全くの無権利状態にあった「障害者」に対し、国家は、教育者は、宗教者は、そして家族や地域は何を目的に、どう対応しようとしたのか——

研究者・研究機関及び現代の障害者問題に関わる全ての人のために本資料集を呈する。



不二出版

障害者問題の総合的・系統的な 資料集成への礎石

清水 寛

(埼玉大学名誉教授)

障害者問題——それはまさに、人間の生命と尊厳が、その時代においてどれだけ真に大切にされているかを問う試金石であり、社会の人間にたいする価値観を根底から変革・発展させるだけの重さをもつ社会的・普遍的問題である。

日本の障害者の生活と権利は、戦前からの長年にわたる先人たちの文字通り血の滲むような努力・苦闘をもとに、戦後の日本国憲法の国民主権・恒久平和・基本的人権の尊重の原則に支えられ、かつそれらの理念・内容を実質的に深めながら向上・発展してきた。しかし他方、日本の政府・財界は障害者にたいする施策にも市場原理・競争原理にもとづく「応益負担」を導入し、また障害者・国民の自由と権利、平和をその根幹から揺るがす憲法改悪の動きも強まりつつある。

そのような状況にあるからこそ、過去との対話を通して現在の課題と未来への展望を明らかにしていくために不可欠な障害者問題の資料の収集・分析もまた切に求められている。

これまでも、児童問題の一環としての障害児関係書籍、身体障害者運動の機関紙、視覚障害者の自伝、障害児学校・施設の年史(誌)などの復刻は行われてきた。しかし、「知的・身体障害者問題」全般の資料についての継時的編集・復刻は初めての試みである。

本資料集成はいまだ質・量ともに多くの問題と課題を残しているが、今後、障害者問題史の研究者も協力・共同して、より総合的・系統的な障害者問題資料集成を創造していくための貴重な礎石としての価値を有していると評価し推薦する。

多面的な 資料集成

一番ヶ瀬康子

(長崎純心大学教授)

戦前、わが国の障害者は、いわれない偏見のもとに、国の富国強兵策にそわない人材として差別され、無視されてきた。また特別視され、教育から排除されてきた。この集成は、その実態を明らかにするための貴重な資料である。とともに、歴史のなかでは、無視されつつけてきた障害者と深く関わり、その支援、発達のために、先駆的な努力を払い、生涯を送ってきた人々のかくれた足跡の裏づけとなる業績も集成されている。さらに特別な保護がなされていた傷痍軍人保護対策などの資料も含まれている。これらの多面的な資料から、私たちは改めて障害者教育、福祉、医療などの歴史的研究をより深めることができるのではないだろうか。

戦後の人権思想確立以後の問題把握、ノーマライゼーションやソーシャルインクルージョンなどの理念のもとに、障害者問題の明るみのみが強調されがちな現在の風潮に対し、今回の資料集成のもつ意味は大きい。それは、戦前の障害者問題との「連続と非連続」を明らかにすることとなりうるからである。日本の障害者問題の歴史の展開とその特質を探究するにあたっての、必須の集成といえるからである。

障害者問題にかかわる教育、福祉、医療関係者はもとより、社会史研究者などにとっても、有意義であり、必携の資料集成である。

現場と歴史を往復するための 資料として貴重

大見川正治

(私立旭出養護学校校長・文京学院大学名誉教授)

戦後六十年を経て長い間使われてきた「特殊教育」という言葉も「特別支援教育」と変換されるように、心身障害児を巡る教育も大きく様変わりする時に標題の資料が復刻されることは「温故知新」といわれるように大変意義深い企画と思います。

従来もこの種の復刻版が発行されておりますが、今回発行される資料集の特色といえる点のひとつとして知的障害・身体障害が分けられずに発行年によって整理されていること、二つ目に書店で発売された書籍のみならず、各施設・学校から出された設立趣意書、規則、要覧や報告書等、個人では殆ど蒐集不可能に近い資料が含まれていることです。

心身障害児／者の教育・福祉に関心のある研究者にとって役に立つ資料集といえるでしょう。

知的障害児教育の現場にいるひとりとして広く利用されるよう推薦いたします。

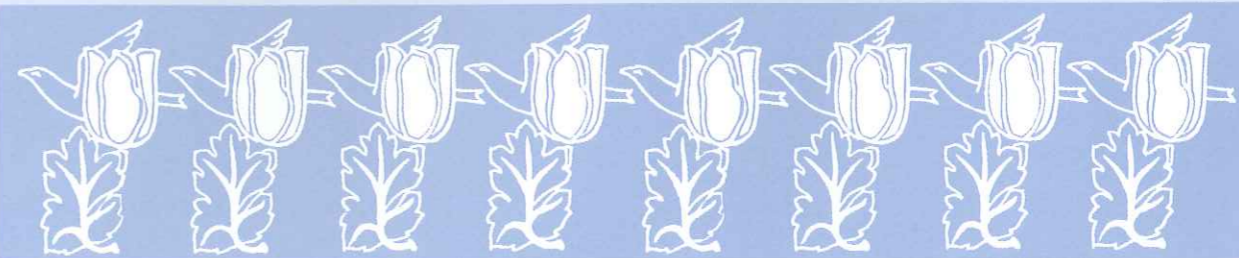
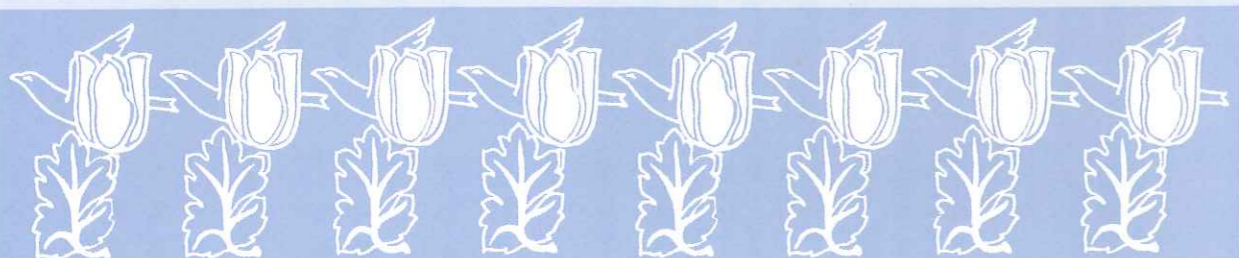
歴史の智慧を 現代に生かす

中村満紀男

(筑波大学大学院人間総合科学研究科教授)

いま、社会貢献が大学等の機関あるいは個人に対して声高に求められている。また子どもや親への実践的活動が最も有意義なものとしてされている。いずれも然るべきことではある。しかし現代におけるこれらトレンドの落とし穴は、社会貢献や実践の背景となつてくる歴史的・社会的・文化的文脈への意識に対する希薄さではなからうか。平田勝政および高橋淳子両氏の解説が付されるこの度の「資料集成」は、わが国の歴史のなかに、先人が自国の伝統と欧米諸国の緊張関係のなかで、障害児(者)やその親に対する実践を通じてどのように社会貢献を果たしたのか、その努力と労苦を如実に示すものである。もとより先人の活動には、不十分さや誤りも含まれているであろう。現代における私たちの社会貢献と実践的活動も、前記の文脈への自覚と意識なしには、先人と同じ轍を踏むのは必然である。それゆえ、何がより妥当な社会貢献や実践的活動であるのかを明らかにするために、先人の遺産を丹念に読み解くことが必要な条件となる。

本書をひもつくことで、いま私たちが初めて概念化したかに見える新しい障害者問題も、実はその萌芽と解決への志向はすでに存在していたことを理解できる。また同時に、先人(そして私たち)が逃れられない時代の制約のなかで、何を、どのように解決しようとしたのか示唆を得ることも大きいことを確信して、本書を関係者の皆様に推薦するしだいである。



知的身体
障害者問題
資料集成 戦前編

精神薄弱児童養護施設資料

文部大臣官房體育課

凡例

本資料は昭和六年二月本省主催精神薄弱児童養護施設講習會に於ける各講師の講演並に同期中に開催したる協議、研究會に於て審議協定せる事項を摘録せるものにして小學校に於ける精神薄弱児童の教育養護施設の参考に資せんがため上梓するものである。

昭和六年五月

文部大臣官房體育課

目次

一、特別學級に就て	文部省 學校衛生官 大西 永次郎 一
二、精神薄弱者の心理	東京帝國大學 助教授 青木 誠四郎 八
三、精神薄弱児童の病理	東京帝國大學 教授 三宅 鏞一 一〇
四、精神薄弱児童の徴候養護並に治療	名古屋醫科大學 教授 杉田 直樹 一〇
五、補助學級の實際	東京高等師範學校 附屬 小林 佐源治 一〇
六、促進學級の經營に就て	東京市關口町野原小學校 附屬 喜田 正春 一〇

附録

一、精神薄弱児童教育養護施設方案	二九
二、精神薄弱児童養護施設に関する希望事項	三三

一、特別學級に就て

文部省 學校衛生官 大西 永次郎

身體虛弱なる児童または精神薄弱なる児童に對して、學校衛生上採るべき必要なる施設は、その範圍極めて廣汎であつて、これまで既に「開放學級」または「補助學級」等の名稱を以て、それ／＼特殊なる教育施設が試みられて來たのであつた。然るに近時その考へが變り、これらの児童をかくの如き特殊な學校に收容せしむ、普通教育施設の中に特別學級を設け、衛生的保護の下に身心の發達、健康の保全を期待せんとするに至つた。而かもかゝる施設は、學校衛生上極めて適切なるものと認められ、今世紀に入るに及んで、歐米各國に於てはその顯著なる發達を見るに至つた。我國に於ても、最近數年の間にこの種の児童を以てて編制する特別學級の試みが起り、今日いづれも相當の成績を示しつつある。なほ最近に於ては、これらの特別學級は、次第にその範圍を擴張し「トラホーム・視力障害・聽力障害・榮養不良・癩癩・不具・心臟疾患等すべての疾病異常児童の特別學級」までに及び、普通教育施設の中に於てこれを取扱はんとするの傾向が顯著となつた。殊に米國に於けるこの種の特別學級の中には、吾人のとつて以てて模範とすべきものが極めて多く、今や教育施設の中に特殊の一系統を有し、學校衛生上重要な施設と認められつつある。左にこれらの特別學級に就て述べることにする。

一、開放學級・養護學級

「開放學級」とは、主として身體虛弱に對する特別學級に對し名づけられたる名稱である。從來この種の身體虛弱者の健康増進に關しては、新鮮なる空氣の必要が非常に重要視せられ、主として山間又は海濱に於て適當なる校地をとり、こゝに所謂「林間學校」または「海濱學校」等の特殊學校を設け、これらに收容する

収録予定資料名(抄)・編著者名・発行年月

第1卷

- 京都盲啞院規則教則。京都府。一八八〇・四
- 東京盲啞學校沿革略創業廿五年紀念明治卅三年末調。一九〇・二二
- 盲人之教育。左近允孝之進。一九〇五・三
- 京都市立盲啞院ヲ盲并ニ聾啞ノ二部ニ分離スルノ義上申。京都市立盲啞院長。一九〇五・二
- 小学児童劣等生救済の原理及び方法。織田勝馬・白土千秋。一九〇六・一
- 私立福島訓盲報古書第一回。自明治31年2月至明治34年12月。編。私立福島訓盲學校。一九〇六・八
- 財団法人滝乃川學園規則。一九〇六
- 京都市盲啞教育革新ノ議。一九〇七・一〇
- 東京盲啞學校概覽。一九〇八・三
- 小學校に於ける成績不良児童教育法。脇田良吉。一九〇九・六
- 通俗病的児童心理講話。述。三宅鏞一。一九〇・一〇
- 東京盲人教育會概覽。一九一〇・二
- 痴兒の發育狀態(一)學園叢書。滝乃川學園。一九〇二・二
- 私立日本心育園々則
- 私立日本心育園略史
- 京都市立盲啞院一覽大正元年度。一九一三・四
- 低能児童教育。乙竹若造。一九一三・一〇
- 病的児童の保護。三宅鏞一。一九一三・一〇

第2卷

- 校規大正三年改。京都市立盲啞院聾啞部。一九一四
- 巖手盲啞學校樂善會報告書自創立至大正參年八月。一九一四・九
- 吃音矯正に就て。伊沢修。一九一四・〇
- 白痴教育。石井亮。一九一四・〇
- 学齡児童智力検査法。述。田谷啓。一九一五・三
- 異常児童教育乃實際。脇田良吉。京都府教育會。一九一五・六
- 緊急問題としての児童保護機關。三田谷啓。一九一七
- 低能性児童に對する注意。塚原政次。内務省地方局。一九一七・二
- 本校要覽大正七年八月。私立林間學校。一九一八・八
- 児童研究所設立趣意書。一九一九
- 児童相談所に關する報告要領。三田谷啓。大阪市役所。一九一九
- 創立滿二十五年記念報。財団法人岐阜訓盲院。一九一九・六
- 大阪市立児童相談所事業概況(大正八年十月卅日)。一九一九・一〇
- 財団法人藤倉學園設立趣意書寄附行爲
- 財団法人藤倉學園規程
- 天才兒と低能兒。岩崎重三。一九一〇・四
- 大阪市立児童相談所概況(自大正八年七月至大正九年六月)。一九一〇・七
- 日本児童協會趣意。一九一〇
- 健康票。大阪市立児童相談所。一九一〇
- 児童相談所經營二閱スル卓見(三田谷啓)。一九一〇
- 大阪市立児童相談所要覽大正十年七月。一九二二・七

第3卷

- 朝鮮盲啞者統計要覽大正十年七月末日調査。朝鮮總督府衛生課。一九二二
- 京都市に於ける特殊児童調(京都市社会課叢書第一編)。京都市社会課。一九二二・七
- 財団法人滝乃川學園寄附金募集趣意書。一九二二・九
- 成績不良児童取扱二閱スル実験報告。鈴木本市。大阪市役所教育部。一九二二・一〇
- 精神検査法。述。今村新吉。沼田作。京都市役所。一九二二・二
- 促進學級の實際的研究。藤岡真一郎。一九二二・三
- 智能検査ノ一般的注意事項。述。熊谷重一郎。(内務省)社会局第二部。一九二二・三
- 盲啞教育概覽。編。福田玉吉。島根県立盲啞學校。一九二二・八
- 茨城県土浦盲學校一覽表。一九二二・一〇
- 入園志願者審査報狀第一号。(滝乃川學園)
- 入園志願者審査報狀第二号。(滝乃川學園)
- 精神欠陥児童。阿部良男
- 筑波學園要覽
- 神戸市立児童相談所紀要第一卷。一九二四・二
- 日本に於ける常設林間學校之實際。梶島殿・石原正明。一九二四・三

知的・身体
障害者問題
資料集成。戦前編



大阪治療教育院（鳥村保穂設立）

第4巻

- 智能発達検査法略説 大阪市役所教育部 一九四・五
- 特別学級編制に関する調査 文部大臣官房学校衛生課 一九四七
- 特殊児童の教育保護 樋口長市 児童保護研究会 一九四・九
- 全国特殊教育状況(社会教育叢書第八輯) 文部省 一九四・二
- 私立大阪教育治療院設立趣意書 鳥村保穂 一九五・二
- 大阪府指令大阪教育治療院規定 一九五
- コトモ入園募集 大阪教育治療院 一九五
- 児童相談票 大阪教育治療院 一九五
- 失明者調査二関スル件(衛心叢書第二号) 内務省衛生局長 一九五・一
- 失明者調査 新潟県衛生課 一九五・四
- 盲人心理の研究 石松量蔵 日本福音ルーテル熊本教会 一九五・六
- 盲教育五十年記念誌 編 町田則文 東京盲学校 一九五・二〇
- 財団法人藤倉学園 一九二・一
- 不具廃疾者の現状(職工問題資料 C巻百五拾号) 工業教育会 一九二・二
- 筑波学園 一九二・二

白川学園 脇田良吉 一九二・六

- 社会事業ノ奨励助成ニ関スル回答 財団法人藤倉学園 一九二・六
- 工場鉦山ニ於ケル業務上ノ不具廃疾者ノ現状ニ関スル調査(労働保護資料第二十二輯) 社会局労働部監督課 一九二・八
- 工場並に鉦山に於ける業務上の不具廃疾者の現状に関する調査(工場パンフレットNo.420) 内務省社会局労働部監督課 一九二・〇
- 工場鉦山に於ける業務上の不具廃疾者の現状に関する調査(工場パンフレットNo.429) 内務省社会局労働部監督課 一九二・二
- 身体虚弱児童状況調査ノ件(庶学発第 〇三七号) 西果鴨町長 一九二・二
- 亀戸町小学校児童の知能 東京府少年職業相談所 一九二
- 全国特殊教育状況(社会教育叢書第十五輯) 文部省 一九二・一
- 秋田県立盲啞学校 一九二・三



三田谷治療教育院/コドモの学園 1927年創立当時

第7巻

- 自由画テストとその規準 幼年児童の精神発達査定尺度 澤 桐原俊見 一九三〇・二
- 特別学級経営ノ組織化ニ関スル草案 一九三〇
- 特別学級経営ノ身体虚弱児童・精神薄弱児童 富山市立愛宕尋常小学校 一九三・二
- 東京市林町尋常小学校児童の实情 一九三・二
- 我が校特別学級に於ける收容児童の個別的教養経過の実例 滝川米造 戸場幸吉 大阪市難波元町尋常小学校 一九三・二
- 精神薄弱児童養護施設資料 大西永次郎 青木誠四郎 三宅鉦一 杉田直樹 小林佐源治 喜田正春 文部大臣官房体育課 一九三・五
- 柏学園第十年報昭和五年度 一九三・六
- 財団法人滝乃川学園要覧 一九三・七
- 本県下ニ於ケル聾啞者生活現況(調査時報之) 岡山県社会課 一九三・九
- 盲人調査成績ノ件(衛心第九四号) 内務省衛生局 一九三・二〇
- 施設中心 虚弱児童の養護 大西永次郎 一九三・二一
- 全国盲人保護並失明防止事業会議報告書 編 中央盲人福祉協会/浅沢栄一 高木正年 石原忍 井上四治 中村京太郎 木村柳太郎 一九三・二二
- 本県下ニ於ケル傷病兵ノ生活現況(調査時報之) 岡山県社会課 一九三・二二
- 岡山県盲人協会概覧 編 岡山県盲人協会 一九三・二二
- 東星学園クリュッセルハイム創設趣意書 守屋東 高木憲次 穂積重通 一九三・二二
- 第二学年の能力別学級編制とその適能指導法の実際 東京市関口台町尋常小学校 一九三・三三
- 大阪市立盲学校学則 昭和七年六月一日改正 一九三・六
- 兵庫県立児童研究所要覧 一九三・九

第5巻

- 大正十五年昭和元年度児童審査二覽 東京府児童研究所 一九二・四
- 新潟県盲人救済事業 新潟県恩光会 一九二・七
- 異常児保護事業ニ関スル件(社第 四二二号) 東京府 一九二・七
- 〔コドモのために教養相談〕 日本児童協会 一九二・九
- 異常児童の話 三宅鉦一 編纂 内務省衛生局 一九二・九
- 校報(調査研究の部) 大阪市船場尋常高等小学校 一九二・〇
- 大阪母ノ会規程 一九二・二
- 治療教育院創立に就て 三田谷治療教育院 一九二・七
- 財団法人三田谷治療教育院 一九二・七
- 財団法人三田谷治療教育院 一九二・七
- 新潟県盲人救済事業概要 新潟県恩光会 一九二・八
- 入学当初知能調査指針 東京市役所 一九二・八
- 昭和二年度児童審査一覽 東京府児童研究所 一九二・八
- 楽園創刊号 編 花岡忠男 花岡学院 一九二・八
- 社会事業施設調査ノ件(社発第九五七号ノ一) 社会事業調査票(昭和二年四月一日現在) 東京市社会局 一九二・八
- 神戸市立児童相談所紀要第四巻 神戸市社会課 一九二・八
- 盲教育概観 盲教育の理想と本邦盲教育の改善 川本宇之介 盲人信楽会 一九二・八
- 特殊児童の精神的特質とその教育(社会教育叢書第十輯) 青木誠四郎 文部省普通学務局 一九二・八
- 收容所内要救護者教調ニ関スル件(辰社第九五八号) 学務部長東京府書記官 一九二・八
- 変態性格者雑考全 愛蔵文献叢書第参巻 中村古映 一九二・八
- 補助学級設備に関する調査 東京市役所 一九二・八
- 創立より新校舎の竣工に至るまで 加藤亨 大阪聾口語学校 一九二・八
- 東京市小学校補助学級の現状 東京市教育局視学課 一九二・八



大阪市立盲啞学校

- 失明者ニ関スル統計昭和六年十一月一日調査 中央盲人福祉協会 一九三・二二
- クリュッセルハイムとは何か (クリュッセルハイム東星学園リーフレット第二輯) 肢体不自由症と其治療 (クリュッセルハイム東星学園リーフレット第二輯)

知的・身体障害者問題 資料集成 前編

大阪市難波元町尋常小学校特別学級経営の実際

- ・大阪市難波元町尋常小学校。一九三三・二
- ・異常児童收容保護依頼二関スル件
- ・東京府社会課長。一九三三・三
- ・児童教化八幡学園

全国盲人協会、盲人組合並盲学校調

- ・中央盲人福祉協会調査資料第一輯。中央盲。福祉協会。一九三三・六
- ・精神薄弱の原因と対策。日本民族衛生学会愛知支部パンフレット
- ・児玉昌。一九三三・二

第8巻

適才教育普及案一名国民教育完成案

- ・御挨拶。脇田良吉。一九三四・二
- ・東京市補助学級児童の統計的観察
- ・東京市教育局体育課。一九三四・五
- ・断種(民族衛生叢書)。編。人類改善財団/訳。斎藤区二郎。一九三四・六
- ・相学園第十三年報。一九三四・七

昭和六年度尋一児童ノ智能検査成績ノ昭和九年度尋一児童ノ智能検査成績。(東京市関口台町尋常小学校)。一九三四・七

「クリュッペルハイム」學術講演会に際して

- ・守屋東。一九三四・二〇
- ・聴講券「クリュッペルハイム」學術講演会
- ・主催。社会教育協会。一九三四・二
- ・児童発育徴候基準。昭和十年度愛育講習会テキスト
- ・編。淡路口治郎。恩賜財団愛育会。一九三五

精神薄弱児問題。本協会設立要旨

日本精神薄弱児愛護協会。一九三五・三

補助学級二関スル調査。東京市教育局保健課。一九三五・三

哑の子もものが言へる。幼い聾児を有るる家庭へ

(聾の子防及教育叢書第一輯)。財団法人華教育振興会。一九三五・三

筑波学園ノ概要。一九三五・三

家庭ニ於テ小学校教科修学認可願。一九三五・四

尋一児童智能検査結果報告昭和拾年度

横浜市児童研究所。一九三五・四

小学校ニ於ケル精神薄弱児童ノ為特別教育施設二関スル建議案(建議第一六号)。田万清臣・河上丈太郎。一九三八・三

四肢傷害者職業選択参考資料(傷痍軍人職業相談資料第一輯)

厚生省臨時軍事援護部。一九三八・三

失明者二関スル統計昭和十二年十月十日調査

中央盲人福祉協会。一九三八・三

傷痍軍人に捧ぐ

編。厚生省/曉島敏・岩倉上雄・桜井忠温・宮城道雄・他。一九三八・三

小学校ニ於ケル精神薄弱児童ノ為特別教育施設二関スル建議。一九三八・四

傷痍軍人保護事業概要。編。傷兵保護院。一九三八・四

肢体不自由者教育令制定二関スル請願。内閣衆議院第四九九号

内閣総理大臣。一九三八・六

不具の部位による適職分類表

編。重慶戦傷者職業指導研究会。一九三八・六

東京文理科大学教育相談部報告第一輯。一九三八・六

東京市補助学級概観。一九三八・七

柏学園第十七年報。一九三八・七

認可願。一九三八・九

虚弱児童養護施設論。養護実施プログラム二案

・豊田順爾。一九三八・二

盲人二関スル法律。中央盲人福祉協会。一九三八・二

富山県立盲啞学校概要。編。富山県立盲啞学校。一九三九

大阪市に於ける学業不振児の調査。大阪市教育局。一九三九・二

傷痍軍人職業再教育読本。傷兵保護院。一九三九・二

精神薄弱者施設の調査一九三九年。昭和十四年。二月末現在

・石井克己。一九三九・二

東京市立光明学校概観。一九三五・五

財団法人三田谷治療教育院報告書。一九三五・八

低能児教育の実際。荒木善次。一九三五・八

六十年史。編。東京聾啞学校。一九三五・二〇

盲人の哲学。社会教育パンフレット第百二十輯

・今岡秀雄。財団法人社会教育協会。一九三五・一〇

学校概観。東京市林町尋常小学校。一九三五・一〇

第9巻

聾啞年鑑。聾啞月報社。一九三五・三

第10巻

東京盲学校六十年史。編。東京盲学校。一九三五・二

横浜市尋六中等学校入学志望者智能検査結果報告昭和拾年度

横浜市児童研究所。一九三五・二

本邦聾啞教育六十年の回顧。日本聾啞教育会。一九三五・二

特別学級(促進学級・補助学級)概観。東京市林町尋常小学校。一九三五

補助学級の経営について。東京市関口台町尋常小学校。一九三六

日本聾話学校一覽。一九三六・二

精神薄弱児の育て方教へ方。安部丑支。一九三六・三

本校尋一児童ノ智能検査成績。昭和四年度ヨリ同十年度ニ至ル調査

関口台町尋常小学校。一九三六・三

東京市立光明学校学則。一九三六・四

光を仰いで。不具者の更生を念願して。沢村利一。一九三六・四

尋一児童智能検査結果報告昭和十二年度

横浜市児童研究所。一九三六・四

〔第八回全国社会事業大会〕(庶務第一号)

全国社会事業大会常設委員会委員長。一九三六・五

東京光の家(盲人保護機関)一覽。東京光の家。一九三六・六

聾啞学校に於ける職業教育の適切なる方法

小川明。一九三六・七

子供の智識の導き方。三田谷啓。一九三六・九



傷兵保護院「傷痍軍人職業再教育読本」1939年

再起の勇士へ。傷兵保護院の施設について。傷兵保護院。一九三九・三

精神薄弱児童養護施設概観

編。浜田光雄。財団法人大阪朝日新聞社会事業団。一九三九・四

保護少年ニシテ現役志願ヲ為シタルモノ等調査二関スル件

(発第二八五号)。東京少年審判所長。一九三九・五

傷痍軍人職業選択参考資料。軍事保護院。一九三九・七

微風第一号(試作)。〔滝乃川学園〕。一九三九・七

失明勇士の一日。失明傷痍軍人寮友会。一九三九・七

本校の特別学級に就て。染井貞子。一九三九・七

特殊教育研究(文部時報別冊)。川本宇之介。一九三九・一〇

私の体験を主としたる特別学級経営案

・高津保雄。一九三九・一〇

傷痍軍人職業指導資料。軍事保護院。一九三九・二

特異児童作品集(みずゑ)。編。大上男。春鳥会。一九三九・二

言語障害ある子の教育。附録当世父親氣質

(児童教育叢書第四十九種)。述。三田谷啓。日本児童協会。一九三九・二

第11巻

熊本県下盲人検診成績昭和九年度昭和十年度

財団法人熊本県社会事業協会。一九三六・一〇

なぜ治療教育院が必要なのか

述。三田谷啓。日本児童協会。一九三六・二

小学校に於ける教育診断と其の実際

・滋賀県滋賀郡坂本尋常高等小学校。一九三六・二

弱視児童視力調査表昭和十二年十一月

東京市南山小学校。一九三六・二

治療教育第一輯。城戸幡太郎・児玉昌・吉沢安雄・鈴木久雄・長野幸雄

小金井学園。一九三六・二

教育調査の結果に就きて。京都市児童院。一九三七・二

補助学級児童ノ卒業後ノ状況。東京市教育局視察課。一九三七・三

肢体不自由者保護事業に就いて(資料第三十三号)

財団法人三井報恩会。一九三七・六

児童保護台帳(滝乃川学園)。一九三七・九

眼を護れ。盲人福祉協会。一九三七・一〇

本校の特別学級。大阪市中大江東尋常小学校。一九三七・一〇

肢体不自由者療養園建設委員会趣意書・規約・計画

一九三七・二

傷痍軍人及軍人遺族の保護制度概要

・社会局臨時軍事援護部。一九三七・二

『感謝の箱』に就て。大阪聾福福祉協会後援婦人会。一九三七

官公立吃音矯正所設置二関スル件

松沢忠太。外七名。一九三八・二

このころ守屋東個人雑誌。一九三八・二/三九七

傷痍軍人保護対策審議会議事録第一輯(後)

傷痍軍人保護対策審議会。一九三八・二

〔特別学級(促進学級・補助学級)概観〕

〔東京市林町尋常小学校〕。一九三八・二

大阪府立盲学校校舍平面図/大阪府立盲学校一覽

一九三九

促進学級の一考察

・大阪府立盲尋常高等小学校特殊教育研究部。一九三九

第14巻

児童保護事業促進

異常児の継続的調査研究に就いて

・速水寅一。兵庫県立児童研究所。一九四〇・三



大阪市立盲学校創立三十五周年記念葉書より「校門」1935年

第13巻

富山県立盲啞学校概要。編。富山県立盲啞学校。一九三九

大阪市に於ける学業不振児の調査。大阪市教育局。一九三九・二

傷痍軍人職業再教育読本。傷兵保護院。一九三九・二

精神薄弱者施設の調査一九三九年。昭和十四年。二月末現在

・石井克己。一九三九・二

知的、身体障害者問題
資料集成。戦前編

大阪市尋常小学校に於ける優秀智能児の調査

●大阪市教育局。一九四〇・三

筑波学園ノ概要。一九四〇・三

兵庫県立児童研究所報告第七輯。一九四〇・四

聾者の職業教育と指導施設―心身異常者の夫等と対照して、
〔聾教育叢書。第二輯。川本宇之介。財団法人聾教育振興会。一九四〇・五

精神薄弱児教育の理論と実際

●福島県師範学校附属小学校。福島県初等教育研究会。一九四〇・六

〔智能測定法(鈴木ヒネ)に関する図表〕

●編者鈴木治太郎。大阪市。一九四〇・六

時局下急遽対策問題。述者岡野豊四郎。一九四〇・七

本校ニ於ケル特殊教育ノ概観

●大阪府道仁尋常小学校特殊教育研究部。一九四〇・七

私設社会事業団体調査票(秘)

●財団法人中央社会事業協会社会事業研究所。一九四〇・九

特異児童を護れ(八幡学園叢書第一輯。述者久保寺保久。一九四〇・二

大阪市立児童教育相談所の使命について。一九四〇

大阪市立児童教育相談所相談票。一九四〇

学業不振児童養護学級の経営に就て

●(田村肇)。大阪市立恵童学校。一九四〇

筑波学園児童状況。一九四一

大阪市立児童教育相談所概況昭和十六年三月

●大阪府役所教育部。一九四一・三

浅草寺児童教育相談所審査票。一九四一・四

筑波学園入園規則。一九四一・五

大阪市立盲学校一覽昭和十六年度。一九四一・五

●大阪府立盲学校。京都市教育部学務課。一九四一・五

●大阪府立盲学校。京都市教育部学務課。一九四一・五

●大阪府立盲学校。京都市教育部学務課。一九四一・五

国民学校訓練精義。長沼幸。一九四一・六

精神薄弱児童取扱規程。東京府学務部社会課。一九四一・八

聾哑児送致件照会。東京市蒲田区役所社会係。一九四一・九

春秋十五年。編者大阪府立聾口話学校。一九四二・〇

日本盲人福祉年鑑。編者中央盲人福祉協会。一九四二・二

收容保護施設非常時防衛保護方御依頼ノ件

〔社協発第一九八号〕東京府社会事業協会会長。一九四二・三

財団法人藤倉学園。一九四二

〔特異児童作品集作品集募集について〕

●厚生省人口局母子課嘱託。厚生記者会。一九四二・三

優秀児の問題。鈴木治太郎。一九四二・四

精神薄弱児童調査カード。東京府。一九四二・六

難聴学級の教育(向陽教育第八号)

●東京市小日向台町国民学校。一九四二・二

Untersuchung für Benützungsbewegung. I-II

〔滝乃川学園。一九四三〕

傷痍軍人再起奉公の手記

●編者軍事保護院。装幀者小川真吉。一九四三・二

異常児とその作品―逞ましき成長

●編者森建蔵・石田博英。一九四三・七

太陽学校―弱いこゝもの健康道場。村島輝之。一九四三・七

本校虚弱児童への対策。大阪府御津国民学校。一九四三・〇

大阪市思斉国民学校概況(昭和十八年一〇月日現在。一九四三・〇

●愛育会愛育研究所。一九四三・二

面会者心得。光明寮

優秀児童家系調査。編者日本学術振興会。一九四五・一

集団疎開二関スル申請。白十字会林間学校長。一九四五・五

飯米増配二関スル申請/新潟県帝都疎開児童後援会会則

●白十字会林間学校長。一九四五・六

学寮調。〔白十字会林間学校。一九四五・六



白十字会林間学校 授業風景

関連図書のご案内

真相究明の基礎資料!

編集復刻版『近現代日本ハンセン病問題資料集成』

戦前編 全八巻

●A4判・B5判/上製/総三九六八ページ

●解説藤野豊

●揃定価 本体一九〇、〇〇〇円十税

●推薦 内田博文・川上武・神美知宏・斎藤美孝子・徳田靖之・永岡正吉

●配本概要

第一巻 一八七六〜一九一七年・解説

第二巻 一九一八〜一九三三年

第三巻 一九三三〜一九三四年

第四巻 一九三五年

●第一回配本 二〇〇二年六月刊行・揃定価 本体一〇〇、〇〇〇円十税

第五巻 一九三六〜一九三七年

第六巻 一九三七年三月〜一九三八年

第七巻 一九三九〜一九四四年

第八巻 帝国議会資料

●第一回配本 二〇〇一年二月刊行・揃定価 本体九〇、〇〇〇円十税

●第二回配本 二〇〇二年六月刊行・揃定価 本体一〇〇、〇〇〇円十税

●第三回配本 二〇〇四年一月刊行・揃定価 本体九〇、〇〇〇円十税

●第四回配本 二〇〇五年七月刊行・揃定価 本体七五、〇〇〇円十税

●第五回配本 二〇〇七年七月刊行・揃定価 本体七五、〇〇〇円十税

●第六回配本 二〇〇九年七月刊行・揃定価 本体七五、〇〇〇円十税

●第七回配本 二〇一一年七月刊行・揃定価 本体七五、〇〇〇円十税

●第八回配本 二〇一三年七月刊行・揃定価 本体七五、〇〇〇円十税

●第九回配本 二〇一五年七月刊行・揃定価 本体七五、〇〇〇円十税

●第十回配本 二〇一七年七月刊行・揃定価 本体七五、〇〇〇円十税

●第十一回配本 二〇一九年七月刊行・揃定価 本体七五、〇〇〇円十税

●第十二回配本 二〇二一年七月刊行・揃定価 本体七五、〇〇〇円十税

学校保健の近代

澤山信一 編著

●A5判・上製・三三三ページ

●定価 本体二、八〇〇円十税

●二〇〇四年九月刊行 ISBN4-8350-3871-1

戦後編 全一〇巻・別冊一

●A4判・B5判/上製/総三九三三ページ

●解説藤野豊

●揃定価 本体一四〇、〇〇〇円十税

●推薦 石川一雄・川田悦子・狩雄二・清水寛

●配本概要

第一巻 重監房廃止・プロミン獲得運動と自治会の新生

第二巻 「痲子防法」改正問題

第三巻 「痲子防法」改正問題II

●第一回配本 二〇〇三年七月刊行・揃定価 本体七五、〇〇〇円十税

●第二回配本 二〇〇四年一月刊行・揃定価 本体七五、〇〇〇円十税

●第三回配本 二〇〇四年七月刊行・揃定価 本体七五、〇〇〇円十税

●第四回配本 二〇〇五年一月刊行・揃定価 本体七五、〇〇〇円十税

●第五回配本 二〇〇五年七月刊行・揃定価 本体七五、〇〇〇円十税

●第六回配本 二〇〇六年一月刊行・揃定価 本体七五、〇〇〇円十税

●第七回配本 二〇〇六年七月刊行・揃定価 本体七五、〇〇〇円十税

●第八回配本 二〇〇七年一月刊行・揃定価 本体七五、〇〇〇円十税

●第九回配本 二〇〇七年七月刊行・揃定価 本体七五、〇〇〇円十税

●第十回配本 二〇〇八年一月刊行・揃定価 本体七五、〇〇〇円十税

●第十一回配本 二〇〇八年七月刊行・揃定価 本体七五、〇〇〇円十税

●第十二回配本 二〇〇九年一月刊行・揃定価 本体七五、〇〇〇円十税

●第十三回配本 二〇〇九年七月刊行・揃定価 本体七五、〇〇〇円十税

●第十四回配本 二〇一〇年一月刊行・揃定価 本体七五、〇〇〇円十税

●第十五回配本 二〇一〇年七月刊行・揃定価 本体七五、〇〇〇円十税

●第十六回配本 二〇一一年一月刊行・揃定価 本体七五、〇〇〇円十税

●第十七回配本 二〇一一年七月刊行・揃定価 本体七五、〇〇〇円十税

●第十八回配本 二〇一二年一月刊行・揃定価 本体七五、〇〇〇円十税

社会事業史研究

編集・発行 社会事業史学会

第一号〜第三号(一九七三年〜二〇〇五年)

定価 本体三、〇〇〇円十税

(ただし第一号は本体五〇〇円、第三号は本体一、〇〇〇円、第八号は本体一、三〇〇円)

知的・身体障害者問題 資料集成 戦前編

編集復刻版

資料集成 戦前編

編集復刻版

知的・身体 障害者問題 資料集成

戦前編



病者の
人権問題資料集成「4」

全一六巻

●解説 高橋淳子

〈高崎健康福祉大学短期大学部助教授〉

平田勝政

〈長崎大学教授〉

A4判／上製／総約六、〇〇〇ページ

●揃定価＝本体四〇〇、〇〇〇円十税

●推薦＝清水寛

一番ヶ瀬康子

大見川正治

中村満紀男

配本概要

●第一回配本

第1巻 一八八〇年～一九二三年

第2巻 一九二四年～一九二二年

第3巻 一九二三年～一九二四年三月

第4巻 一九二四年五月～一九二七年三月

●二〇〇五年六月刊行 ●揃定価＝本体一〇〇、〇〇〇円十税

ISBN4-8350-5509-8

●第二回配本

第5巻 一九二七年四月～一九二九年二月

第6巻 一九二九年三月～一九三〇年八月

第7巻 一九三〇年一〇月～一九三三年

第8巻 一九三四年～一九三五年一〇月

●二〇〇五年二月刊行 ●揃定価＝本体一〇〇、〇〇〇円十税

ISBN4-8350-5514-4

*第5巻巻頭「解説」

●第三回配本

第9巻 『聾啞年鑑』一九三五年三月刊

第10巻 一九三五年二月～一九三六年九月

第11巻 一九三六年一〇月～一九三七年七月

第12巻 一九三七年九月～一九三八年

●二〇〇六年三月刊行 ●揃定価＝本体一〇〇、〇〇〇円十税

ISBN4-8350-5519-5

●第四回配本

第13巻 一九三九年

第14巻 一九四〇年～一九四二年五月

第15巻 一九四二年六月～一九四三年二月

第16巻 一九四三年七月～一九四五年

●二〇〇六年六月刊行 ●揃定価＝本体一〇〇、〇〇〇円十税

ISBN4-8350-5524-1

●病者の人権問題資料集成

シリーズ1 『近現代日本ハンセン病問題資料集成』戦前編(全八巻既刊)

シリーズ2 『近現代日本ハンセン病問題資料集成』戦後編(全一〇巻既刊)

シリーズ3 『近現代日本ハンセン病問題資料集成』補巻(1～5既刊)

続刊予定

『知的・身体障害者問題資料集成』戦後編

『精神障害者問題資料集成』

『子どもの人権問題資料集成』

『結核問題資料集成』

●表示価格はすべて税別。

不二出版

T113・0023

東京都文京区向丘1-2-12

電話03・3812・4433

ファクシミリ03・3812・4464

振替00160・294084